



朝日21 関西スクエア 会報

Asahi Kansai Square21

2011.2

No.
131

関西からのメッセージ集団



—上原さんは2007年度、企画運営委員で、当時、滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール(大津市)館長でした。4面舞台の大ホールを備えたオペラ劇場で、開館(1998年)当時は西日本で唯一の規模で話題を集めました。どのような成果がありましたか？

何よりも鑑賞機会の乏しかった滋賀県民が世界の舞台にふれることができるようになったことです。さらに、京都、大阪を中心に関西でオペラ、ダンスの鑑賞の機会を提供できたことは大きな成果だと考えます。日本でオペラ劇場というと新国立劇場が注目されますが、びわ湖ホールが毎年、何を上演するのかは、新国立と同様、全国的な注目を集めます。今年度の日本のオペラ界の話題は、ワーグナーの大作「トリスタンとイゾルデ」でしたが、びわ湖ホールが10年10月に、新国立が年末から今年1月に上演し、ともに全国的に劇評が掲載され好評でした。びわ湖ホールでは年4回のペースでオペラを制作上演してきています。

—開館当時、大阪での記者会見で、大津でオペラを上演しても見に行く人はいないだろう、と言われたそうですね。

そういう方は「望遠鏡を逆さまにのぞいている」のです。逆さまに見ていると、実際よりも遠く、小さく見えてしまう。滋賀から大阪まで毎日通勤している人も多く、大津から大阪までは40分の距離なのです。でも大阪から見ると大津は遠いのです。同じことが東京と日本の他の地域にも当てはまります。びわ湖ホールには全国から多くの方が訪れるようになりました。それによって、「大津は近い」と感じてもらえるようになったのではないのでしょうか。

もうひとつ力を入れてきたのは、ホールはオペラを制作し上演しているオペラハウスである点です。「ハコモノ」ではないということを強調したい。オペラは、芸術監督をはじめ、ソリスト(歌手)、オーケストラ、バレエ団、合唱団、舞台を支える様々なスタッフなどによってできあがります。欧米のオペラハウスではこれらの集団を抱えています。しかし、日本では新国立劇場でさえそれは実現されていません。まして財政規模の小さな滋賀県では現実離れた願いになります。また、大阪、京都に複数ある立派なオーケストラを凌駕するようなオーケストラを持つことは不可能です。そこでびわ湖ホーでは、16人と少人数ではありますが、声楽家を専属とすることにしました。これが日本では他に類のない、ソリストの集まり、びわ湖ホール声楽アンサンブルというわけです。ここから世界に翔いていった人も出てきました。

—「事業仕分け」の時代です。文化事業でも逆風が吹いています。

上原 恵美さん (前びわ湖ホール館長)

「公は「次世代への投資」を」

芸術・文化は社会の基盤

文化への投資だという視点が欠如しているのではないのでしょうか。これからの成熟社会では芸術文化は社会のインフラストラクチャー(基盤)というべき重要な役割を果たします。

—しかし、国や自治体は莫大な財政赤字を抱えています。投資というからには、目に見える形での回収が必要ではないのでしょうか？

モノへの投資と、人への投資は違います。投資をして翌年いくらの利ざやがあがってくるのかという議論では、人は育たないのではないのでしょうか。人作りには時間がかかり、人が芸術・文化を育て、地域をつくるのです。「市場原理」をあてはめていい分野といけない分野があると思います。公は投資回収に長い期間がかかる「次世代づくり」のための投資に本腰を入れるべきです。

2010年は地方での文化事業が盛んでした。名古屋市では「あいちトリエンナーレ2010」が、瀬戸内海の7つの島と高松では瀬戸内国際芸術祭が開催され、いずれも「新基軸だった」と評価されました。この二つの芸術祭に足を運び、「水都大阪2009」との差に考え込んでしまいました。「目標を上回る190万人の来場」などの数字はありましたが、名古屋や瀬戸内に比べるとあまりにもお粗末に感じました。名古屋には愛知芸術文化センターや名古屋市美術館があり、瀬戸内には直島のベネッセアートサイトがあり、芸術祭には香川県が大きくかかわった。これに比して、大阪は文化に関して、民頼みでありすぎ、公が力を入れていない、それが都市の力を弱めているのではないかと思います。

関西というとき、大阪中心になっていないのでしょうか。日本というときに東京中心になっているように。「文化力」を取り上げるならむしろ大阪以外の地域の方が強い。「大阪」で「関西」を代表してほしくない。メディアはもっと広範な視野で情報を集め、全国に向けて発信してほしいと思います。その発信から交流が始まり、新たな道筋も見えてくるのではないのでしょうか。

うえはら・えみ 43生まれ。1978年、労働省から滋賀県庁へ。02年4月から08年3月までびわ湖ホール館長。現在、京都橘大学現代ビジネス学部教授。専攻は、文化政策・まちづくり、文化政策論。





「日本は中国に毅然として対処を」

尖閣諸島問題に対する学生意見から

熱田 親憲 関西国際大学非常勤講師

昨年の9月の尖閣諸島海域での中国漁船衝突事件以来、あらゆるマスメディアは中国とどうつきあったらよいかというテーマで、いろいろな視点から論じられている。

伝統あるQ大学社会学部の私の授業に於いても話題にした。「尖閣諸島問題とは何か。今後中国とはどのように向き合っていくたらよいか」と課題して300～500字の論述テストを授業に実施した。学生の意見を尊重した表現で次の26のキーワードでまとめてみた。

最近の尖閣諸島問題に対する学生のビヘイビア(2011.01.10)

(サンプル数350、複数回答あり)

積極・対決型

1. 防衛力：軍備の強化	6人	3. 毅然と対処	96人
2. 軍隊の駐屯	1人	4. まず領土の主張	36人

合計 139人

穏健・解決型

5. じっくり話し合う	62人	12. 文化交流優先	4人
6. 相互理解に努める	6人	13. 技術交流優先	3人
7. 対等な立場で話し合う	15人	14. ボランティアによる民間外交	1人
8. 妥協点を探す	13人	15. 過去の謝罪から出発	1人
9. 冷静な判断	11人	16. 事件の和解を優先	3人
10. うまく付き合う(外交)	12人	17. 絆の構築	4人
11. 経済交流優先	6人	18. 友好関係への努力	23人

合計 164人

消極・他力本願型

19. 世界の世論を味方にする	16人	23. 中国依存度の減少	10人
20. 米国と共同解決	17人	24. 戦争回避	6人
21. 歴史的事実を世界にアピール	8人	25. 島の共同使用	3人
22. 国際法で領土解決	6人	26. 冷めたドライな関係	1人

合計 67人

(1)中国漁船の衝突事件に対する政府の態度が弱すぎるという批判からか、毅然とした態度で、事件解決と領土権問題に対処すべきだという意見が3分の1あった。

しかし、日本としては毅然としたいが、何分にも中国は世界第2位の経済大国;GDPになったので、中国の慢心に近い振る舞いを良しとしないが、戦争や輸出規制などに発展しては日本経済の繁栄はないことは自覚しなければならない。従って、じっくりと話し合って相互理解に努め、政治面以外だけでも友好関係を築かねばならないという穏健・問題解決型の意見が約半数を占め、学生の平均的意見となっている。

なかなか日本ペースにもっていくことは難しいとみる学生は20%近くおり、米国をはじめ世界の世論を味方にして中国に迫りながら、中国の依存度を低下させるリスク回避の意見は、長期戦略としては有力な視点であろう。

(2)少数意見ではあるが、過去の謝罪から出発、ボランティアによる民間外交、絆の構築という点に注目したい。

中国の社会体制は社会主義であり日本は民主主義社会であるので、政治的妥協点を見つけるのは時間とエネルギーが掛かり、せっかちな国民性と稚拙な日本外交にはなじまないように思う。従って資源、エネルギー、穀物などの貿易協定は国家レベルの問題であり、覇権主義も見え隠れするので最後までこのテーマであろう。

即効的で戦術的外交をまず構築するには、政治以外の、国家レベル以外の、民間外交の構築から着手すべきだと思う。民間外交も企業(日本または中国)と一緒にあって日本のNPO/NGOが主導するボランティア活動を通して、中国の家庭の中までを含んだまちづくり、自治体づくりに貢献して、日本理解と絆を積み重ねて、友好関係に相応しい日本のイメージづくりをすることであろう。

テーマは例えば、黄砂から守る環境都市・(植林)、循環型街づくり、健康にやさしい農業づくり(有機農業、品種改良)風力発電事業に基づく村づくり(山間部)、感染症予防ネットワーク、海外観光交流(エコツーリズム)、貧困と人権の改善などの人間・生活面の安全保障が思い浮かぶ。テーマは現地の問題解決のための重要度から選ばばよいのであるが、着手前に日本人としてしなければならないことがある。

(3)それは、日清戦争、日中戦争を含む過去の歴史に対する謝罪である。お互いに第二次世界大戦の記憶が薄れていく世代、学校で学ぶ以外戦争を知らない世代が混在する現代でも、歴史の事実は存在し、中国の周恩来首相時代に過去の戦争賠償問題は反古にすると宣言されているだけに、謝罪は必須と思う。日本ではその近代史についてはあまり詳しく教えてくれなかっただけに、謝罪に抵抗感のある人も多いと思うが、こゝろで社会のリーダーたるものは謙虚になって、しっかりと歴史の勉強をしなければならない。過去の歴史に対する加害者は日本であり、被害者は中国であるという認識に立って心より謝罪して、中国の歴史的名誉の回復に一石を投ずるのも、民間外交をスムーズにさせることであろう。歴史的事実を共有すれば自ずと相互理解も深まろう。相互理解から更に心の絆を結ぶ信頼を構築するには儒教の教えを共有することも良いと思う。中国では道德教育のために孔子学院を各地につくり始めているという。儒教が大阪で開花した江戸時代の商人道を孔子学院で紹介する文化交流も大阪が出来る民間外交として、更に絆が深まろう。

(4)長期的に日本で準備しなければならないのは問題解決のできる人材の育成である。これまでは物財のメーカーの製造に必要な技術を中心に輸出してきたが、これからはこれまでの専門技術の分野を超えて問題解決のために技術の再編成をするソリューション技術、仕事の新しい流れを造るシステム技術など、組み立てる統合能力が求められる。

これまで、過去の歴史への謝罪、儒教の文化交流、問題解決型の人材育成の必要を述べてきたが、これらによって非政治的な分野での相互信頼を構築することに腐心することが先ず必要であると申しあげたい。政治、経済問題に関する解決は前述の相互理解の構築が前提となろう。

(あつた・ちかよし)

『社会といきる商店街—茶碗やおやじの一人言—』を出版

天神橋筋の街あきんど 土居年樹さんから

会員消息 伝言板

れない。「70歳を過ぎたら多少は言いたい事を言ってもいいか」と自らに納得させて書き綴った。四十にして惑わず、七十にして思うがままに生きる(従心)。そんな理想の生き方にはほど遠いが、地域愛・文化を育てる心の一端をお汲み取りいただければ…。多くの方々に読んで頂けたら幸いである。(東方出版刊、税込み1575円)



商いが最も苦手な私が、18歳のときに親父の急死で「仕方なし商人」になって55年。それが縁で商店街の仕事に携わって35年。人生の大半を商店街の活性化一途に生きてきた。今、振り返ってみて思うのは「宿命に逆らわずひたすら突っ走って来て気がついたら古希を過ぎていた」というのが実感だ。街あきんどが多少でも社会に貢献出来たことを感謝する一方で、今の日本社会の歪みを肌で感じてきた。大阪人特有の「反骨精神」が一冊の本になったのかも知

会報連載の「チョン・インキョンの眼」が3月で終わります

7日から17日まで、アサコムホールでチョン・インキョン展を開催

「眼」の原画など約40点と誌面も展示

風刺マンガ家で京都精華大講師のチョン・インキョンさんが、朝日21関西スクエアの会報に2008年3月からほぼ3年間にわたって連載してきた風刺マンガ「チョン・インキョンの眼」が、3月で終了します。これにちなんで、「チョン・インキョンの眼」の原画と会報の掲載誌面を並べた展覧会が、2月7日から17日まで、大阪市北区中之島の朝日新聞大阪本社1階のアサコムホールで開催されます。土日、祝日は休館。入場無料。

チョンさんは韓国・ソウル生まれ。京都精華大学・同大学院でひとコママンガ(カートゥーン)を専攻。韓国の新聞マンガ家の作品を取り上げた博士論文が『コバウおじさんを知っていますか』という本になり、日本ジャーナリスト会議賞黒田清JCI新人賞を受賞。日本漫画家協会特別賞、京都市芸術新人賞なども受賞し、2004年の京都国際マンガ展ではグランプリに輝きました。現在はNPO法人京都国際マンガ家会議事務局局長を務めています。

今回展示されるのは、「まったくのホラ話でもない話」と題して、日本の政治や市民の暮らしぶりを見つめて、チクリと風刺する作品が多い。中には思わず笑いを誘われる作品もあります。誌面掲載のマンガの原画28点と新作9点の計37点に加えて、会報の誌面も拡大して展示します。

チョンさんは「3年間にわたって、貴重な作品発表の場をいただきました。毎月いい緊張感に浸りながら、私なりの目線で日本社会を風刺させていただきました。会報での連載は終わりますが、またどこかで作品を通じてお目にかかりたいと思います。会期中にぜひ会場まで足を運んでいただけたら幸いです」と話しています。



会場では展示作品の中から、来場者に好きな作品5点を選んでもらい、人気の高かった作品数点を会報3月号で特集します。ご鑑賞いただくと共に、ご投票をよろしく願います。

チョン・インキョンの眼



久々に年末年始を日本で過ごしました。そして、今年もお雑煮の餅がのどに詰まって、何人かの高齢者が亡くなりました。この時期ならではの日本の不思議な「出来事」のひとつです。個人的には、世間が年末年始の休みに入った約1週間、ちょっとした恐怖に襲われました。「外部」から連絡が途絶えたのです。日本には家族がないので、もし今、私に何か起っても誰も気付かないだろうな、と思いました。

去年の流行語にもなった「無縁社会」。他人に迷惑をかけないことや遠慮が美德とされている日本社会で、孤立した個人が周りに助けや支援を求めるのは、勇気の要ることです。「無縁社会」現象を止めるには、美德とされてきた通念から自由になることが必要かもしれません。正月に大変な目に遭われた冒頭の高齢者の方々は、家族と一緒にだったのでしょうか。

『族譜』の継承と韓国のお墓参り

桃山学院大学名誉教授の徐龍達さんから

会員消息 伝言板

7両日、始祖の阿干公・徐神逸(西暦817年、新羅憲徳王時代)、2世貞敏公・弼、および3世章威

公・熙が祀られている孝養山と象頭山で行われた。全国の代表ら数百人の大祭に、34世の私は生まれて初めて、息子も同伴して参加した。

祖先崇拜の象徴ともいえるわが家の古い『族譜』は、1945年3月の大阪大空襲で完全に焼失した。敗戦後、故郷の釜山から持参した族譜が手許にある。昨年、秋田雨雀・土方与志記念の青年劇場(福島明夫代表)が、梶山季之原作『族譜』をジェームス三木の脚本・演出により全国巡回公演した機会に、現物を持参して講演した。20年毎に発行される『利川徐氏族譜』1905(明治38)年刊が古い方で、1925(大正14)年版の奥付には「朝鮮総督府許可」とあって、家系図の類まで日帝が検閲する当時の言論統制の厳しさがうかがえる(「植民地統治下の朝鮮、『創氏改名』の悲劇描く」『朝日新聞』2010. 10. 20)。

韓朝鮮において「家門」とか「両班」はほとんど話題にならないが、「姓名」に関しては日本人以上に厳密な考え方をしている。豊臣秀吉が日吉丸、木下藤吉郎、羽柴筑前守などと改名し、現在も養子、結婚により改名する日本人には、「創氏改名」で奪われた韓朝鮮人の改姓の痛みは理解できないだろう。

韓国では祖先崇拜思想と愛族思想から、姓氏を通して幽玄の余韻を感じ、引き継がれた家統の脈絡から先祖との一体感、家門に対する矜持を感じているようである。20年毎の『族譜』の刊行は、その思考継承への典型だといえる。

韓国では、男系血統の記号「姓」と「本貫」(同族系統に所属しているかどうかを示す基準)に応じて、毎年先祖の墓参りが行われている。利川徐氏大宗会主催の2010年度墓参りは、利川市郷土文化遺蹟第17号の行事として11月6、



礼服をまとい「初献官」を務める徐龍達(右から2人目)

当日、祭官の指示により、私は古色豊かな礼服、革帯、金冠、祭靴などを身につけ、光栄にも「初献官」(国の祭祀で最初の盃を献上する臨時の官職)をつとめた。この大祭を陶磁器とお米所で有名な利川市が後援するのは、3世の章威公徐熙先生が高麗国の救国偉勲と認められ、すでに記念公園、記念館などの大事業が推進中だからである。墓参奉祀要領による厳粛な儀式は、およそ1200年昔の祖先崇拜の念いやがうえにも高まり、感無量であった。息子の同伴は、初めてで最後となる父としての、ひとつのけじめでもあった。

『名作映画には「生きるヒント」がいっぱい!』を出版

弁護士で映画評論家の坂和章平さんから

09年8月30日の衆議院議員総選挙によって実現した政権交代から約1年半。大きな期待を背負ってスタートした鳩山連立政権は政治とカネや普天間基地移設を巡る混乱で強い批判を浴び、発足からわずか約9カ月で退陣しました。民主党代表選挙で小沢一郎を破った菅直人首相は、「脱・小沢」を示すことによっていったん支持率が上昇しましたが、中国漁船衝突事件に端を発する日中問題の迷走ぶりや、同事件の衝突映像がインターネット上に流出し、



仙谷官房長官と馬淵国交大臣の問責決議が可決されるなど、わが国の政治状況は機能不全の一手手前となっています。また、経済的にはデフレと円高そして株価の低迷が深刻となっています。わが国の行く末はますます混迷度を深め、先行き不透明ですが、そんな現代社会ニッポンを生きる指針として、『名作映画には「生き

るヒント」がいっぱい!』(河出書房刊・定価1,400円・税別)を紹介します!

本書は、私がここ数年の間に観た洋画、邦画、中国・韓国映画などから名作映画50本を厳選し、「困難に立ち向かう勇気を与えてほしいとき」「仕事がうまくいなくてイラつくとき」「生きていくのが嫌になったとき」など、現代人が最も関心のありそうな50のテーマごとに一つの作品を取り上げ、「あらすじ」と「ここに注目」を紹介しています。そして最後に、生きるための指針となればと願って、「生きるヒント」を示してみました。

名作映画は、観ている人たちに、勇気と希望、自信と信念など、なんらかの示唆を与えてくれるものです。私も、62歳の今日まで映画から多くのことを学んできました。それは、生きていく上でも、仕事をしていく上でも、大いに役立っています。名作映画は、まさに「生きるヒント」がいっぱいなのです。本書はどちらかというと年寄り向き(?)かもしれませんが、また、私の思い入れが強すぎるかもしれませんが、そんな本書から、老若男女のみなさんそれぞれが、自分の置かれた状況を打破する、希望の灯りをぜひ見つけてください。ご注文等は坂和総合法律事務所(☎06-6364-5871)まで、よろしくお願ひします。

こんな話 まき 薪割り 漫画家の河村立司さんから

会員消息 伝言板

山村の正月は静かに暮れる。

だが、そのお祝い気分も1月7日まで。「さあさあ山登りじゃ」1軒に1人(男女不問)が手に鋸や鉈を腰に昼弁当をくくりつけ、白い息を吐きながら山裾に集合。

季語ではまだ『山眠る』だが、屠蘇元気で素早く年間のカマドのたきぎを作っておかねばならぬ。昔からの約束事だ。

昔は集落ごとにかなり広い『共有林』もあり、育ちを診て伐採区域を決め、太い松や杉材は地域の普請用に温存し、ころあいの雑木を伐り倒した。乱伐ではない。集落の借景を守る姿美しい巨木はそのままにして御神酒をそなえる。夕方、伐った薪を籠の道端に集め、嵩を均等にして番号札を打ちクジを引く。当たった材をめいめいの家に運び込み、翌朝から「さあ薪割りじゃ」と意気込む。1、2週間でカマドのサイズに断ち割ればオンの字。

女学生だった姉たちも手伝うと言う。私もヘッピリ腰でふらふら参戦(?)。ともかくもパーンと生木が真っ二つに弾ける快感は、気の毒だが、すばらしい。「貸してみい」「もう2、3本割らして」と斧を奪い合う。

掌にはマメ、全身に汗。山村の小雪まじりの冷気が気持ちいい。

やっと終わってみれば、はや2月――。

姉たちの、嘆きの「正月太り」も、すっかり消えている。



ベンダー(自販機)基金を広げよう

21世紀ディレクターズユニオン代表の林信夫さんから

過日、大阪府の企画課から連絡があり「輝け!子どもパフォーマー事業(仮称)」の審査委員をやってほしいとの依頼があった。これは府内のさまざまな場所で子どもたちのパフォーマンス(文化活動)を実施する人たちや団体を募集しようというもの。話を聞いてみて「へ〜」とおもったのは事業の中身よりもその事業資金だった。府庁に設置されているベンダー(自動販売機)の売上金の一部を活用したも

のが原資になっているという。当選者には活動費として5万円から100万円を交付(対象は5者以内)するというからチリも積もればすごいものだ。

最近、寄付付き商品なども出始め、モノを消費するなかで知らぬ間に世間に貢献することがおこっているようだ。志をもって社会に奉仕するNPOやNGOも活動のための資金は必要である。ベンダー基金みたいなシステムがもっと社会化すれば、と思う。大阪府の事業の詳細は府民文化部企画課(06-6210-9305)まで。

◆会報1月号に掲載しました「会員の2011年の抱負」の山中康裕さん(京都ヘルメス研究所長)の原稿で、「カウンセラー」とあるのを「カウンセラー」と誤って表記しました。山中さんにご迷惑をおかけしましたことをお詫びします。山中さんから、「カウンセラー」に関して以下の原稿をいただきましたので、掲載します。

「私はカウンセラー」

私は、この肩書きについて、すでにくつつかの所で書いてきました。一番大きいのは岩波書店が出している『科学』という雑誌です。2005年4月以来、すでに18本の論文を書いてきています。この朝日21関西スクエアの会報にも当初「カウンセラー」を名乗った時点で書いてきました。以下にもう一度いいます。

「カウンセラー」とは、カウンセラーではない。これだとテンで話にならない。名乗って以来、すでに6年を経過する

が、今のところ、まだ世界で私一人だけである。よく、理解してくれる人は、「河川救護師」とか、「河川探索師」とか、「河川援助士」などと翻訳してくれる人もあるが、そのいずれとも微妙に違う。

一言で言うのは難しいが、要するに、昨今の「キレた」心をいかにして「つなぐ」かが、キーコンセプトである。この地表で一番高い所、世界ではエヴェレスト(チョモランマ)、日本なら富士山から、一番低い所、つまり、海面にまで連続として流れて、これらを「つなぐ」のは、川のみである、という認識に立つ。そこからイメージを膨らませて、河川をめぐる生態系、絶滅種の問題、河川の汚染の問題、河川工学から、河川にまつわる神話伝説に至るまで、河川をめぐるあらゆる学問や運動をつないでいき、ひいては、この地球の危機を救おう、という壮大な試みなのだ。(岩波の雑誌『科学』2005年6月号以下18本の論文を参照ください)



人去りて、人来るきた

土屋 弘 (編集局長補佐)



初めて仙谷由人さんと会ったのは、もう20年も前のことです。私は政治部の社会党担当でした。党の幹部から「将来のわが党をしょって立つ諸君です」と、土井ブームで当選した他の1年生議員とともに紹介されました。個性派揃いの「ニューウエーブ」の面々の中にあって、仙谷さんはちょっとシャイな印象でした。当時40代半ば。まさか「影の総理」の異名をとるほどの大物になろうとは想像もしませんでした。

長く政治記者をしていると、政治家たちの浮き沈みを嫌でも目にします。若いころ出会った有力政治家の多くは引退したり鬼籍に入ったりしましたが、92歳の中曽根康弘元首相だけは衰えを知りません。この正月も谷垣禎一・自民党総裁に「荒法師になれ」とハッパをかけたとか。まさに怪物です。

私が「中曽根総理番」になったのは1980年代半ばです。風圧を感じるほどの迫力がありませんでしたが、ご本人は若い記者たちとのやり取りを楽しんでいるふうでした。いまの「ぶら下がり」と違い、当時は歩きながら二言三言交わすのがせいぜい。メモもご法度で、一言も聞き漏らすまいと必死でした。

ある時、中曽根さんが地元・群馬県産の下仁田ネギを知っているかと聞くのです。「あれは鍋に入れて食うと甘くてうまいんだ」。番小屋(番記者たちの詰め所)に緊張が走りました。「政敵を食ってやるという闘争宣言だ」「いや、休戦して鍋でもつつこうというんだろう」。見かねた秘書官が「ゆ

べの鍋がよほどうまかったんだよ」と解説してくれ、誤報は免れましたが。

さて菅直人首相です。江田五月さんと2人で社民連を率いていた20数年前も、やっぱり「イラ菅」でした。取材に行っては逆にやり込められたものです。本会議場の演壇で、丸めた質問原稿を振りあげて政府を責め立てたこともあり。「まるでレーニンだね」と同僚とささやきあったものです。

そのころ、社会党の長老議員から「菅君と江田君、どちらが未来の総理にふさわしいか」と謎かけをされました。「包容力ある江田さんでしょう」と答えると、即座に「いや、自民党政権を倒すのに必要なのは菅君の攻撃力だ」。ただし、長老は中曽根内閣の後藤田正晴官房長官の名を挙げ、こう付け加えました。「ああいう名参謀を得ればの話だが」

仙谷さんが去り、後任の官房長官には枝野幸男さんが抜擢されました。史上最年少の46歳。組閣後の会見は、気負いと緊張でガチガチでした。とはいえ、政権の命運はこの若い参謀の双肩にかかっているのです。

そうそう、大阪にも生きのいいのがいました。橋下徹知事は、私が中曽根番になったころ、まだ中学生。元気すぎてかえって心配ですが、「大阪都構想」を引っさげて春の嵐を呼ぶかもしれません。

2人とも経験不足で危なっかしい。でも、龍馬や真之もきっとそうだった。ここは大人の度量で見守るとしましょうか。
(つちや・ひろむ)

事務局から



▽1月23日、NPO法人関西ジャズ協会の「ニューイヤーコンサート」を聴きに行った。会長はスクエア企画運営委員の大塚善章さんだ。約900人収容の会場は満員。出演者は中学1年生から84歳。各世代のトッププロも顔をそろえた。緊張しながらソロをこなした中学生はいずれ演奏家としてステージにたつのだろうか。いろんなことを思って3時間はあっという間だった。巻頭インタビューで、上原さんに文化力についてお聞きした。その、厳しいご意見を思い返しながらかった。上原さん、大阪、なかなかしぶとおまっせ。(富永)

▽年初にあった恒例の「大阪新年互礼会」。経営トップの方々には新年を漢字で表現してもらいました。卯年にちなんだ「跳」(安藤圭一・三井住友銀行副頭取)や、「悩みを吹っ飛ばす」との思いを込めた「笑」(佐藤茂雄・大阪商工会議所会頭)、基礎に立ち戻る大切さを念頭に「礎」(飯田圭児・近鉄百貨店社長)。どれも、なるほどと感じ入る選択が並びました。大企業から中小まで幅広い産業が根付き、「潜在的な力がある」といわれる関西経済。世界経済が大きく変動するなかで、今年はどうな底力を発揮するのでしょうか。2月異動で関西スクエアの仕事から離れます。昨年2月から1月1回、関西スクエア特集面で主に経済人のインタビューを担当しました。皆様には大変お世話になりました。(永島)

▽TOHOシネマズが映画の入場料を18歳以上は1500円(現在1800円)、18歳未満は1000円に値下げすること。映画好きな私には嬉しい話ですが、前売り券やサービスデーを利用して観に行くことが多いため、もっと値下げしてくれたらと思います。先日久々に映画館に行きました。大画面の迫力に大音響が加わり臨場感たっぷり。改めて映画館で映画を観ることの意味を感じました。「なんでわざわざ映画館に行くの?」私の周りに映画好きが少ないせいかわく聞かれますが、理由は先に述べた通りです。料金が改定されれば、映画館を訪れる人は増えるでしょうか。マイナス300円。映画館の良さをより多くの人に知ってもらうには、もう一声足りない気がします。(園)

朝日21関西スクエア 会報 No.131

●スタッフ

富永伸夫、浅野稔、永島学、深松真司、天野剛志、橋本正人、園真規子

●事務局

〒530-8211 大阪市北区中之島3-2-4 朝日新聞大阪本社内
TEL 06-6231-0131 (内線5048) FAX 06-6443-4431
E-mail square.k@asahi.com (PDF会報の希望はこちらへ)
URL <http://www.asahi.com/kansaisq/>